



AiraCity Nishikie kindergarten

Phone 63-2038

Fax 63-2034

子育てサロン

5月24日（日）は、日曜保育参観日。親子で一緒に登園し、子どもたちの活動を参観した後、各保育室で親子製作活動に取り組んでもらいました。子どもたちもいつもと違う環境（雰囲気）で、少し緊張した様子も見られましたが、親子で楽しく活動していました。特にお父さん方は、日頃仕事で忙しく、なかなか子どもと接する時間が少ないため、ここぞとふれあいを楽しんでいる様子も見られました。

後半は、5名の子育てサポーターを招いて「子育てサロン」を実施しました。5つのグループに分かれ、子育てに対する考え方や関わり方、またしつけ等について語りました。サポーターを介してお互いに語り合うことで、子育てについてなど見直す良い機会にはなったようです。ありがとうございました。



遊びは学び 学びは遊び

子どもが「困った体験」をしてみて、そこで問題解決のためにあれこれ考えたり工夫したりする時、素晴らしい学びがあることを見逃さないことです。子どもが困っているとすぐ答えを教えたり、やり方を教えたりしている親は、結果主義にとらわれて、その奥に動いている子どもの学びという大切な働きに目が届いていないのです。じっくり考える学びを眺めて待ちたいものです。

子どもが何か新しい発見をして、息をはずませてお母さんのところへ報告に走ります。ところがそれを聞いたお母さんにとっては、十年も二十年も前からよく知っていること、当たり前のことにすぎません。そんな時のお母さんの反応は何とたよりないこと。ここで「待てよ」と考え直してみたいものです。子どもにしてみれば、全く初めての経験、初めての発見です。それは心おどる学び体験です。その価値は人から教えられた知識とくらべものになりません。将来の学習意欲の大切な芽です。それを摘み取ってしまうようなお母さんの生返事こそ、子どもの意欲を損ねてしまうことにも・・・。



その子の進歩と

変化に気づいて

子どもはどの子も、その子なりの進歩や発達を続けているものです。早いおそいとか個性的なちがいはあっても、とにかく「発達」という現象は起こっているのです。

自分の子どもを、よその子とくらべることは、親としてさげられないことかもしれません。しかし、くらべるとそこには、優劣とか遅速とかがつきものとなり、あせりや不安が伴ってくるものです。それは、その子にとってよい影響は与えないと考えます。

着目すべきは、その子の発達や変化を見のがさないことです。

ちいさな成功体験を積み重ねることです。どうすれば、子どもが夢中になれるか。家庭と担任が情報共有することも大切になってきますね。



子どもの新しい経験や子どもの発見、子どもの思いつきや子どもの工夫など、それは大人から見ればたわいもないことかもしれませんが、子どもにしてみれば大事件です。スリル満点のこのような経験を、親が共鳴し共感を示してやることによって、子どもの学ぶ意欲が伸びるとしたら、これは親としても見のがせません。

見る体験・聞く体験は知恵の土台づくり

知恵づくりの第一歩は「自分の目で」よく物事を見すえる習慣をつけさせること。親の目で見て教えるのでなく、子ども自身の目で見えるチャンスをふやすこと。

例えば、子どもの部屋が「ちらかっている」というのは、親の見方です。子どもの目には、ちらかっているように見えていないのですから、そこからです。結論を先に言ってしまう習慣を是正したいものです。「見る」と「観る」、見るは見えること、自然に目に映ることです。鳥が飛んでいるのが目に入った時、見えたとなります。観るというのは、心を込めて、目をこらして、注意深く観るのです。自主的、意欲的、意図的、意識的に「観る」ので観察という熟語生まれます。「聞く」と「聴く」も同様です。子どもの日常生活で、「観る」「聴く」が出発点だとすると、まずは親が、わが子を見るのではなく、観る心構えから始めてはどうでしょうか。子どもを観察することから始めると、子どもの心、子どもの特徴をよく察知することができ、子どもへの指導も効果的となるかもしれません。



それって
ツマグロ・・・
チクチクしない？

